堀江泰夫　監修、早川将和　編著、日本組織内司法書士協会　著
『司法書士目線で答える　会社法の法務実務』

【評者】司法書士　鈴木龍介（司法書士法人鈴木事務所）

企業法務を担う司法書士のためのナビゲーション

まず、本書がどのような書籍であるかを知っていただくには、著者である「日本組織内司法書士協会」について紹介するのが早道のように思われます。同協会は、組織―司法書士事務所以外の企業や官庁―に所属する司法書士（司法書士有資格者を含みます。以下に同じです）で構成され、そういった組織の中で司法書士が活躍することを目的に2013年に設立された団体です。メンバーの多くは、企業の法務部門に従事し、登記をはじめとする司法書士の本来業務を含むケースもあるかもしれませんが、メインとしてはそれ以外の法務実務に携わっています。

一方で、企業法務に積極的に取り組みたいという司法書士は少なくありません。ただし、司法書士が得意とする会社法や商業登記に精通しているだけではクライアントとなる企業のニーズに応えることはできないのも事実です。本書のまえがきで"周辺分野"と述べられていますので、"周辺分野"という表現を使いますが、実は"周辺分野"が企業法務の中核であるともいえます。つまり、司法書士が企業法務の専門家として、企業の真のパートナーになるためには、"周辺分野"の把握と理解が不可欠ということになります。

本書では実務的な観点で細分化された16のパートを設け、その中で全49項目についてQ&Aとその解説という形式が採用されていますので、必要のあるところをピックアップして参照することができます。内容的には司法書士になじみのある新株発行や株主総会・取締役会については当然触れられていますが、内部統制や労務といった"周辺分野"にも多くのページが割かれています。

本書の特徴として、１点目は、タイトルにもあるように司法書士の目線で言及されていることが挙げられます。司法書士の思考回路をよく知っている編著者・監修者の配慮により司法書士にとって身近とはいえない"周辺分野"についてもスムースに導いてくれます。２点目は、適用法令や参考文献がきちんと網羅されていることが挙げられます。企業法務の現場では、クライアントである企業から根拠や理由を問われることが少なくありませんので、その面でも大変助かります。３点目は、図表や記載例が各所に散りばめられていることが挙げられます。これらはイメージを掴み、そして実務に対応するための有用なツールとなります。もう１つ付け加えるとすると、具体的に執筆に携わった方の多くが上場会社に所属していることもあり、司法書士にとってブラックボックス的なところでもある上場会社ならではの取扱い等が解説されているのも貴重です。

本書は、企業法務に携わっている、もしくはこれから携わろうとしている司法書士にとって、まさにナビゲーターといえる１冊であると思います。

（日本加除出版、Ａ５判319頁・定価3,200円（税別））

（評者は司法書士／司法書士法人鈴木事務所代表社員）